

区民に優しくあたたかい 板橋区政をみんなの力で!

議長 広瀬 憲義

今回の東京都知事選挙は、東日本大震災という未曾有の大災害のもとで闘われました。板橋区労連は、二期12年間にあつた石原都政の福祉切捨て、特別養護老人ホームなど介護施設を遅れたままにして老人福祉費の歳出に占める割合を全国最下位にしてきたこと、災害時に医療の拠点となる都立病院を半減させたこと、税金の使い方を大型開発偏重から切り替え、特養ホームや認可保育所の増設、全国でも遅れた30人学級の実現、中小企業振興・雇用支援を実現するために、東京地評とともに「革新都政をつくる会」が

擁立した、小池 あきらさんを推薦しました。私たちは、被災地の救援・復興に全力を上げ、戦後最大の国難を打開し、それを通じて新しい社会をつくる契機にすることをめざし、被災者支援と原発危機の収束、国の総力をあげての復興、厚労力行政・エネルギー政策の転換、「福祉・防災のまちづくり」への都政の転換を訴えてきました。

「いのちを守る福祉・防災都市」や原発依存から自然エネルギー都市への転換と全国の原発の総点検を求め、原発依存から脱却し、太陽光・風力・小水力など自然エネルギー都市をつくる都政を実現するために取り組みましたが、現職の厚い壁を打ち破ることはできませんでした。いよいよ、統一地方選挙も後半戦です。

板橋区労連は、婦人団体・商工団体・東京土建・健康文化会など、多くの区内の民主勢力と協力して、「チェンジいたばし・区民の会」を結成し昨年11月から坂本区政を変えて、区民の願いがかなう新しい区政をめざして運動をすすめてきました。

「防災の安心」「子育ての安心」「介護の安心」「国民健康保険料の引き下げ」など税金の溜め込みをやめて、福祉・子育て・介護・医療・防災対策など区民の命・くらしを応援する区政へのチェンジを求めて、佐々木健市さんと一緒に闘うことを確認しました。

「稲むらの火」の教えが生かされなかった

東日本大地震発生から一週間経った日、お見舞いがてら職場の近くの何軒かのお宅を訪ねた。その中の一軒のお宅で、八十歳の男性に應對して聞いたが、この方も「人生の中で経験したことのない地震だった」と言っていた。同時に、「稲むらの火」の教えが生かされなかった」とも言った。

「稲むらの火」は、小泉八雲ことラフカディオ・ハーンが一八九六年に岩手県三陸沖で起こった「明治三陸沖地震」のときの津波被害の報に接して書いた「生ける神」をもとに作られたもので、一九三七年から一九四七年まで(尋常)小学校の国語の教科書に使われていた。

「この男性の年齢からして、当時学校で習っていて引用したと思われるが、「明治三陸沖地震」の津波被害と今回の「東日本大地震」の津波被害を重ね合わせて言うたのではなかった。それは、「原発安全神話」による「人災」に対してであった。

「この男性の年齢からして、当時学校で習っていて引用したと思われるが、「明治三陸沖地震」の津波被害と今回の「東日本大地震」の津波被害を重ね合わせて言うたのではなかった。それは、「原発安全神話」による「人災」に対してであった。

「この男性の年齢からして、当時学校で習っていて引用したと思われるが、「明治三陸沖地震」の津波被害と今回の「東日本大地震」の津波被害を重ね合わせて言うたのではなかった。それは、「原発安全神話」による「人災」に対してであった。

「この男性の年齢からして、当時学校で習っていて引用したと思われるが、「明治三陸沖地震」の津波被害と今回の「東日本大地震」の津波被害を重ね合わせて言うたのではなかった。それは、「原発安全神話」による「人災」に対してであった。



東京地評 北部ブロック未組織駅頭宣伝行動

日時: 5月12日(木) 18:00 ~ 19:00
場所: 板橋区大山駅南口(ハッピーロード側)
参加団体: 板橋区労連・豊島区労協・練馬区労連・練馬区労協・北区労連・文京区労協・文京区労連

協定

2011年4月に行われる板橋区長選挙あたり、佐々木健市と「チェンジいたばし・区民の会」は下記の協定を結びます。
一、私たちは、坂本区政を転換し、区民の願いを実現するため、チェンジいたばし・区民の会の基本政策の実現をめざし、区民および区内に働くみなさんと共に全力でとりくみます。
区民が主人公の区政のために「経営革新計画」を抜本的に見直し、生活第一に財政運営を転換します。
区民のいのち・くらしをまもり、安心して安全なまちをつくりまします。
区内で働く人たちや中商工業者が、やりがいを持ち希望の持てる板橋にします。
自然と環境を守る住みよいまちにします。
男女平等・共同参画の姿勢を貫き、女性の視点を活かした区政にします。
憲法と「板橋区平和階市宣言」の精神を尊重する区政にします。
二、私たちは、いのち・くらしを大切に区政への転換を願う広範な個人、団体、政党などと政策の一致点にもとづいて大同団結し、自主的積極的なとりくみを広げ、憲法・地方自治をくらしのなかに生かすために全力をつくします。

2011年3月12日
板橋区長候補 佐々木 健市
チェンジいたばし・区民の会事務局長 船木 義弘

「この男性の年齢からして、当時学校で習っていて引用したと思われるが、「明治三陸沖地震」の津波被害と今回の「東日本大地震」の津波被害を重ね合わせて言うたのではなかった。それは、「原発安全神話」による「人災」に対してであった。

(船木 義弘)

城北ハイタク交流会

第48回ハイタク交流会「春闘情報交換会」開催

3月13日(日)板橋グリーンホールにて、第48回城北ハイタク交流会を14団体27名に



て「春闘情報交換会」を行いました。冒頭、奥寺世話人(飛鳥労組小茂根支部)より開会にあたり「地域計画」「第325号通達」「特別措置法」について「皆さんで通達の内容を確認しあい、今春闘の交渉の参考にしたいいただき、労働条件改善を柱に情報交換を図りましょう」と挨拶がありました。引き続き奥寺世話人の司会進行で、各団体の現状を報告していただきました。3月13日現在、要求書を提出した団体・これから要

求書を提出する予定の団体は3割、4割程度です。2011年春闘は、タクシー事業の適性化・活性化が施行されて一年、適正な実車率に基づく減車の実現と生活できる労働条件を勝ち取るための春闘になります。交流会への参加者は、個人参加の方・親睦団体の方など色々ですが、乗務員負担の撤廃や定年上限年齢の導入、過去の積み残し要求など各職場に沿った意見が出され、解決済み・未解決などさまざまです。また、親

睦会のない事業所からの参加者からは親睦会を立ち上げたという要望があり、皆さんからも協力をしていただきたいという申し出もありました。今回初めて参加された方も多く、各団体から全員意見を聞くことができました。現在、ハイタク業界は東京のタクシーの減車率17・5%で、地域協議会が示した20%の削減はまだ未達成です。特定事業と相まって適性化・活性化を推進するために、譲渡・譲受・合併または分割・供給



もひろえない大混乱の中で、輸送力の減少・経営の合理化などが生まれようとしています。最後に、広瀬世話人(板橋区労連議長)より閉会の挨拶の話の中で、11日に発生した東日本大震災当日、タクシーもひろえない大混乱の中で、

急を要する状況のため必死にタクシーを探していた方のお話でした。奇跡的に止まってくれたタクシーの乗務員さんが「困っている時はお互い様です」と、近距離でもあたたかい言葉をかけていただき感激したということをお聞きしました。お互いの職場で抱えている問題など助け合いの精神で情報交換をする事が大事だと今更ながら痛感し、「すべての団体に幅広く参加していただきけるような交流会にしたいです」との言葉で終了しました。(グリーンキャブ板橋支部 佐藤 英夫)

ホッとコーナー

物作りで楽しみ、プレゼントで楽しむ!

子どもの頃から何か作ることが好きで、工作・技術などが得意だった。今でもいろいろ作っているがよくやってい



るのには、『組み木』、新聞紙で作ったバラのブローチとフクロウ作りだ。『組み木』は電動糸鋸で動物などの形を切ったもので、部屋を飾ったりちよつとしたプレゼントとして人に送ったりしている。電動糸鋸で木を切っていると

どうするのかなどを考えるのが楽しい。また、フクロウ作りは生徒の教材として自分で試しに作ったら、



バラはほとんど人にやってしまい今は残っていない。新聞紙でどこを花びらにするか、花びらの色の組み合わせを



思ったよりもかわいくできたので作るようになった。物を作っている時は集中できも楽しいが、作った物をプレゼントすることも楽しみの一つである。(都教組板橋支部 鈴木 真夫)

2・19板橋怒りの総行動

2月19日 今年に「震怖強」- 賃金引上げで内需拡大を」板橋怒りの総行動」(共)板橋大運動実行委員会主催)を実施しました。総行動は午後1時から「都政学習会」を皮切りに、宣伝カー(3台・12名)とハンドマイクによる宣伝隊(11隊・80名)で街にくりだし、「消費税増税反対」、「国保料の引き上げ反対」、「区役所南館は建替えではなく耐

2月16日には区内6駅頭で「何でも相談会」事前宣伝(17団体・50名)を行いました。(事務局長 船木 義弘)

